

数理同窓会報

No. 10 (2016年9月1日)

九州大学大学院数理学府同窓会
<http://alumni.math.kyushu-u.ac.jp/>



West1号館(新理学部棟)を背景に、左が亭亭舎、右が皎皎舎(学生支援課提供)



左手奥が体育館。左が亭亭舎、右が皎皎舎(学生支援課提供)

卷頭言

富田稔先生が昨年10月に91歳でご逝去されました。

私が先生の講義を受けたのは、学部3年の解析学III（測度論）と学部4年の解析学V（ヒルベルト空間論）でしたが、印象深いシーンがいくつもありました。富田先生は、いつもノートを持たずに教室に現われて、大きな声で講義を進められました。あるとき、講義を始めてまもなく、「この条件はなくてもいいかもしれない。」と言って、板書しながら説明を始められました。優加法性か何かの条件だったような気がします。学生は皆、一所懸命にノートをとっていましたが、90分の講義が終わりに差し掛かった頃に、「うーん駄目だ！」と言って、笑いながら黒板を消して教室を出ていかれました。その場にいた全員、今日の講義はいつたい何だったのだろうと、あっけにとられるばかりでした。

あるときは、講義の開始時刻から随分時間が経っても先生が現われないので、理学部1号館4階の先生の部屋に様子を見に行きました。先生は在室のようでしたので、ノックをして、講義の時間であることを伝えたところ、薄暗い部屋の中から「何分経ったのか？」と返事があり、「30分です。」と答えると、「うーん、それじゃ、講義は止めにしようか。」とおっしゃり、そのようになりました。

そう言えば、学部4年生のときに、工藤達二先生が位相数学の講義で、「ルネ・トムに論文を送ったが、未だに何の返事もない。」おっしゃり、豪快に笑っておられた姿も懐かしく思い出されます。時間がゆっくりと流れていた、古き良き時代の数学教室を思い出しつつ、富田稔先生のご冥福をお祈り申し上げます。

平成28年9月

数理学府同窓会 会長
九州大学教授 川崎英文

富田稔先生を偲んで

福岡大学 名誉教授 井上 淳



富田先生が2015年10月8日に91歳でご逝去されました。ここに、恩師富田先生を語ることにより、先生のご冥福を祈りたいと思う。先生の専門である作用素環は量子力学の数学的基礎付けを主な動機として、1930年代にフォン・ノイマンにより創設され、多くの数学者・物理数学者により研究が開始され、1950年代にそのピークを迎えた。しかし、1960年代に入るとその研究は段々停滞するようになってきた。その主な原因は数理物理等で自然に登場するIII型の作用素環の研究手段が見つからなかったからだろう。先生は10年余りの歳月をかけ、III型作用素環の解析という難問に立ち向かわれ、1967年にルイジアナ大学で開催された「C*-環と物理への応用」に関する国際会議で、その結果を発表された。これは非可換解析の真髄ともいえる独創的な理論で「富田の理論」として世に知られている。この理論が停滞していた作用素環論研究の飛躍的発展の基礎

となり、フランスの数学者コンヌ、それに続きアメリカの数学者ジョーンズのフィールズ賞受賞につながった。

私は大学4年と大学院5年、合わせて9年間九州大学で先生の指導を受けた。多分先生にとっては「富田の理論」の本質の解明は終わっていたのだろう。我々学生にその理論について話をされることはありませんでした。

先生の講義は独特でチョークだけ持つて来られ、先生が当時研究されていた「クライン空間上の作用素解析」を話された。時には黒板の前で考え込まれ、黒板一面に書かれたことをすべて消されることもあった。内容は私の力不足で理解できなかったというのが正直なところだった。今思うと、先生は黒板の前で数学をされていたのだろう。その姿を見て、数学の考え方・研究への取り組み方等を知らず知らずのうちに教わったように思う。

先生は研究はもとより、あらゆることに先生自身の考え方を押し付けるのではなく、学生自身の自主性に任せるというのが教育方針だったのではないかと想像している。私も学生の自主性に任せるように努めてきたが、年を重ねるにつれ、その難しさがわかつてきた。その点においても、自身の教育方針を貫き通された先生の偉大さを感じている。教え子の一人である故蛭原幸義（元福岡大学教授）が先生のことをお詫びするような人で、我々は先生の手のひらで踊っているようなものだと言っていたのを思い出す。私は以上述べたように偉大な数学者・教育者の富田先生を恩師に持ち、大いなる影響を受けたことを幸せに思っている。

2015年10月8日の午前中、佐藤坦先生と共に先生にお会いし、話をしたのが最後の別れになった。明日、黒瀬君（福岡大学教授）と来ますと言うと、にっこり笑ってうなずかれたのが忘れられない。改めて富田先生のご冥福を心からお祈り致します。

いのうえ あつし（1968年修士入学）

九州大学同窓会連合会との個人情報の相互提供に関するお願い

会長 川崎 英文

九州大学には、数理学府同窓会を始めとする 13 の部局同窓会と、唐津地区同窓会や松の実会などの地区同窓会があり、独自の活動を続けています。これらの同窓会の連合組織として、九州大学総長を会長とする九州大学同窓会連合会が 1999 年に設立され、現在は 33 の正会員を数えています。連合会は、部局を越えた同窓会組織として横断的な活動や組織作りを支援し、同窓生相互の交流と親睦を深めるとともに、九州大学と同窓生の情報交換や連携協力を緊密にし、九州大学の発展と学術の振興に貢献することを目的としています。詳細は、連合会 HP をご覧ください。

これまで数理同窓会では、新規卒業生の連絡先等を、数学事務による 3 月末のアンケート調査を通して得て参りました。しかしながら、アンケート調査のデータを九州大学と連合会が管理することになり、新規卒業生のデータを連合会に依存せざるを得なくなりました。このような現状を踏まえ、数理同窓会としましても、連合会と個人情報の相互提供に関する覚書を締結すべく検討を始めております。

具体的には、連合会は新規卒業生のデータを提供し、数理同窓会は更新データを提供することになります。連合会に提供するのは、数理同窓会名簿に記載が許可されているデータのみとし、同窓会名簿から抜粋した形の紙媒体とするのが適当ではないかと考えております。また、数理同窓会から提供した個人情報の利用範囲についても、覚書に明記することにしております。

理学部同窓会を含むいくつかの正会員は、既に連合会と個人情報の相互提供に関する覚書を交わしておりますが、重要な案件ですので、同窓会員の皆様のご意見を頂戴できればと思っております。皆様か

らのご意見を踏まえて案を作成し、数理同窓会 HP で周知を図りたいと考えております。

ご多忙な中、恐縮ですが、下記同窓会事務局までご意見をお寄せ頂けると有難く存じます。

連合会 HP : <http://doso-rengo.jimu.kyushu-u.ac.jp/>

同窓会 HP : <http://alumni.math.kyushu-u.ac.jp/>

同窓会事務局 : alumni@math.kyushu-u.ac.jp

かわさき ひでふみ (1978 年修士入学)

伊都キャンパスに亭亭舎と皎皎舎が開所

会長 川崎 英文

表紙の写真をご覧下さい。そびえ立つ 10 階建ての建物が、昨年 9 月に数学関係者が再移転した West1 号館（通称、新理学部棟）で、その手前にある和風建築が亭亭舎（ていていしゃ）と皎皎舎（こうこうしゃ）です。

同窓会報 7 号（2012）で「新亭々舎プロジェクト」を紹介いたしましたが、2015 年 11 月 9 日、伊都キャンパスにおいて、亭亭舎及び皎皎舎の開所式が開催されました。ご支援下さいました方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。



手前が皎皎舎、奥が亭亭舎

亭亭舎は、卒業生による「新亭々舎プロジェクト」（九大 OB 相談の研主催）への寄附と、九大生協からの寄附により、学生や教職員など九州大学に関係する人々が集う場となることを願って建設されたものです。

また、皎皎舎は、九大生協の購買部・書籍部の名称です。箱崎キャンパスの文系書籍部を広げて明るくした感じで、理系書籍が以前より充実しています。



皎皎舎（書籍部）

亭亭舎の名称は、言うまでもなく、旧六本松キャンパスの「亭々舎」を継承しており、皎皎舎の名称は、公募により卒業生の瓜生宏輝氏の案が採用されたものです。

中国の南北朝時代の文人である孔稚珪（447～501年）が著した「北山移文」の中に「其亭亭物表、皎皎霞外」とあり、「亭亭」は、山や木などが高くそびえたつさま、また遠くはるかなさまを表し、「皎皎」は、日や月の光が明るいさま、人柄の潔白さをも表します。二葉亭四迷の『浮雲』の中にも「亭亭皎皎」という表現がございます。



亭亭舎内部

亭亭舎は、疊敷きの大広間に掘り炬燵式のテーブルが並ぶ造りで、冷暖房が完備しています。日中は自由に利用できるため、学生の憩いの場となっています。

本年6月に、亭亭舎を数学科3年研修の懇親会場として利用しましたが、使い勝手のよい施設でした。(熊本地震のため、九重研修所は現在閉鎖されています。)

亭亭舎の夕刻からの利用は、学内関係者による予約が必要です。予約受付は皎皎舎注文カウンター、092-805-7700、受付11時～17時。使用に関する問い合わせは学生支援課課外活動支援係、092-802-5966、gaggakusei@jimu.kyushu-u.ac.jpにお願いします。

なお、本稿は、九大トピックス（2016.01.27）「伊都キャンパスに亭亭舎・皎皎舎が開所」<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/topics/view/7>を参考しております。写真は学生支援課にご提供頂きました。有難うございました。

かわさき ひでふみ（1978年修士入学）

九大での思い出

佐賀大学大学院工学系研究科 上原 崇人

2010年3月に九州大学大学院数理学府の博士後期課程を卒業して、早6年が過ぎました。卒業後の6年間、軒並み曲折ありました。卒業直後は一般企業で働いてみたいとの思いから、アクチュアリーとして信託銀行に就職しました。しかし1年もしないうちに心変わりてしまい、結局、大学で研究者として働くことに決めました。北海道大学、東北大、新潟大学と3つの大学で働いた後、現在では佐賀大学大学院工学系研究科でお世話になっています。つまり学生時代にいた同じ九州に帰ってきたわけです。

私は学生の頃から九州が好きでした。その理由は、何よりも食べ物が安くて美味しいからです。私は学生時代の大半を箱崎で過ごしました。学生時代を思い返すと、もちろん研究が大変だったという思い出もありますが、それよりも箱崎キャンパスの周りに美味しい定食屋や居酒屋がたくさんあった思い

出が強く残っています。九大卒業後、いろいろな土地で生活をしましたし、各土地で美味しい食べ物はありました。九州での食べ物の安さ美味しさは秀逸です。学生時代はそれほどお金を持っていなかったのですが、それでも頻繁に食事や飲みに行くことができたのは九州の土地柄の良さではないかと思っています。もちろん食事や飲みに付き合ってくれる友達や先輩が数理学府内にたくさんいたことも私にとって大きな財産です。

私の研究についても簡単に触れさせてください。研究内容は、一言でいうと「代数多様体上の力学系理論」です。代数多様体というと複素多様体論や代数幾何学等で現れる代数学、幾何学に属する対象です。一方、力学系はエルゴード理論やボテンシャル理論等で現れる解析学に属する対象となります。つまり代数学、幾何学、解析学が交差する分野で研究を行っています。この分野に興味を持ったきっかけは、学部4年生のときに九大で行われた勉強会に参加したことでした。当時は勉強会に参加しても全く内容が理解できなかったのですが、何度も勉強しながらしていくうちに少しづつ内容がわかつてきたことを記憶しています。その勉強会では、主にマクマレン（彼はフィールズ賞受賞者です）の論文を勉強しました。彼は、ある超越的な多様体上でジーゲル領域とよばれる現象をもつ写像を構成していました。超越的な写像ですから、具体的に記述できないのですが、理論的に証明ができるところはとても興味ある結果です。しかし超越的故、ジーゲル領域を具体的に描くことはできません。そこで私は具体的に現象を記述できる写像を構成してみたいと思いました。つまり超越的ではなく代数的な多様体上でジーゲル領域等の面白い現象を示す写像を見付けたいと思ったのが、この研究の出発点となりました。現在の研究にもつながる勉強を九大の学部時代から触れることが出来たことは、私にとって大きな経験となりました。

現在は九大とそれほど離れていない佐賀に住んで

おり、今後も九大に伺う機会も多いかと思います。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

うえはら たかと（2005年修士入学）

新棟移転で生まれた「定理」

数理学研究院 横山 傑一

数理同窓会報への記事を書かせて頂けることを嬉しく思います。私は2004年に九大理学部数学科へ入学し、大学院時代、PD時代を経て、2014年に助教として着任致しました。この間も九大に所属しておりました（PD時代はIMI所属）、丸12年九大数理にお世話になっていることになります。

私の専門は計算機数論です。数論の中でも梢円曲線に興味があり、数式処理への実装・高速化・データベース化などとよくバランスをとりつつ研究しています。梢円曲線は数論的に興味深いのはもちろんですが、最近では公開鍵暗号の開発などにも幅広く応用されており、純粹数学の重要性を肌身で感じています。また、計算機の性能は日進月歩で変化するため、常に最新の情報に気を配ることも重要です。

さて、私が助教着任後に初めて担当した大きな業務は、新理学部棟（現在の数理の建物）への移転でした。旧棟（図書館棟）からは徒歩30秒の距離ですが、膨大な計算機の移設には準備段階から丸1年ほどかけて、数理の先生方のご協力のもと慎重に行いました。移転して半年が過ぎ、私のオフィスは陽の当たらない地下から素晴らしい眺望の7階に移り、日々の業務をよい環境で行えることに感謝しています。そして、数理の移転によって新しい「定理」が発見されました。

定理 数理スタッフの行動範囲は（ほとんど至る所）傘をささずに行き来が可能である。つまり屋根のあるルートが少なくとも1つ存在する。

ルページ積分の授業以来の用語を久しぶりに使いたかったという私的な理由もありますが、これは我々にとって大定理と言えます。但し、人気の中華料理店や椎木講堂、イーストゾーンの幾つかの建物は上の定理をみたしませんので、少し条件を緩めました。

もう少し具体的に説明しましょう。講義（基幹教育）の際に向かうセンターゾーンの建物とは空中回廊で結ばれ、理学部棟1階の出口から直結しています。再履修のときにも利用することから、「再履橋」という歌謡曲のタイトルのような名前が学生さんの間では定着しているそうです。また、食堂への行き来に便利な工学部棟と直結したことにより、数理の建物から外に出ることなく移動が可能になりました。ちなみに伊都キャンパスは西に行くほど上り坂のため、理学部棟から工学部棟への移動中に2回、建物の階数が変化するという「時空のゆがみ」を体験することができます。例えば私の7階のオフィスから工学部棟に渡るとそこは5階、さらに工学部棟の巨大ゲート下の渡り廊下を過ぎると4階に変化します。これは普段なかなか経験出来ません。

新棟に移転して変化したことは他にもたくさんありますが、もう一つ挙げるとすればやはり箱崎時代のように「理学部の他学科の様子が見られる」ようになったことでしょうか。私のオフィスは数理ゾーンの端にあり、すぐ横は素粒子物理学のセミナー室になっています。共用の洗面台で昼食後の歯磨きをしているとセミナーの様子が聞こえてくるのですが、数学のセミナーとはかなり異なる習慣もあるようで、とても興味深いです。数理のように独立研究室ではなく、いわゆる「ラボ」という雰囲気も新鮮に思えます。

伊都キャンパスでの生活は、まだまだ新しい発見があります。新棟移転で生まれたこの「定理」が正しいかどうか、証明を記すには余白が狭すぎるのでは、機会がございましたらぜひ一度訪問・検証して頂ければと思います。

(参考) 伊都キャンパスマップ:

http://www.kyushu-u.ac.jp/f/27337/ito_jp.pdf



オフィスからの眺望

← ウエスト2号 5F ウエスト1号 7F →

工学部棟-理学部棟の境界

よこやま しゅんいち (2008年修士入学)

○できごと

(2015.05.01 ~ 2016.06.30)

◇藤澤克樹教授のチームが3期連続世界1位に

藤澤克樹教授（マス・フォア・インダストリ研究所）らの研究チームの開発したソフトウェアがビッグデータ処理性能試験 Graph500 を実施した結果、2015年7月13日（日本時間7月14日）国際会議「ISC'15」（フランクフルト、ドイツ）、2015年11月17日（日本時間11月18日）国際会議「SC'15」（オースティン、合衆国）に続き、2016年6月20日（日本時間6月21日）国際会議「ISC'16」（フランクフルト、ドイツ）で3期連続世界1位となったことが発表されました。

◇千葉逸人准教授が若手科学者賞を受賞

千葉逸人准教授（マス・フォア・インダストリ研究所）が2016年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞しました。受賞業績は《無限次元の結合振動子系における分岐理論と同期現象の研究》です。

◇村川秀樹助教が応用数学研究奨励賞を受賞

村川秀樹助教(数理学研究院)が日本数学会2015年度応用数学研究奨励賞を受賞しました。受賞業績は《細胞接着の数理: 実験、モデリング、解析》(英文: Mathematics of cell-cell adhesion: experiments, modeling and analysis)です。2016年3月17日、日本数学会2015年度秋期総合分科会に於て授賞式が行われました。

◇白井朋之教授、JMSJ論文賞を受賞

白井朋之教授(マス・フォア・インダストリ研究所)が2016年JMSJ(Journal of Mathematical Society of Japan)論文賞を受賞しました。受賞論文は《Ginibre-type point processes and their behavior》です。

◇博士2年の井上公人さん、IMI所長賞を受賞

数理学府博士2年(当時)の井上公人さんが2015年12月2日、第2回IMI所長賞を受賞しました。受賞対象は、大学院数理学府学生として初めて実施した海外長期インターンシップに於ける、受け入れ先企業研究者が高く評価する成果です。これは今後の数学学生の長期インターンシップの海外進出のさきがけとなる特筆すべき活躍であるとされますが、具体的な研究内容は企業の機密事項となっています。

◇ホームカミングデー＆アラムナイフェスの開催

2015年10月17日、伊都キャンパスの椎木講堂を主会場とした九州大学ホームカミングデー＆福岡同窓会アラムナイフェス2015が開催されました。

◇小野寺有紹助教、日本数学会建部賢弘賞を受賞

小野寺有紹助教(マス・フォア・インダストリ研究所)が日本数学会2015年度建部賢弘賞を受賞しました。受賞業績は《発展方程式的アプローチによる梢円型方程式の解の形状の研究》です。以下の次第で授賞式が開催されました。

日時: 2015年9月14日(月) 14:50-15:20

場所: 京都産業大学、神山ホール

◇佐伯修教授、日本数学会幾何学賞を受賞

佐伯修教授(マス・フォア・インダストリ研究所)が日本数学会2015年度幾何学賞を受賞しました。受賞業績は《安定写像と多様体のトポロジーの研

究》です。2015年9月14日、日本数学会2015年度秋期総合分科会に於て授賞式が行われました。

◇先進暗号数理デザイン室開設

マス・フォア・インダストリ研究所先進暗号数理デザイン室が2015年4月1日に開設され、2015年6月11日、開設式並びに記念ワークショップが開催されました。

◇IMIオーストラリア分室が始動

2015年3月1日にラ・トローブ大学(メルボルン)にIMIオーストラリア分室が設立され、3月12日、13日に現地で開設式典及びキックオフミーティングが開催されました。さらに2015年4月から、IMIオーストラリア分室の活動の一環として、遠隔講義システムを用いた共同セミナー「La Trobe-Kyushu Joint Seminar on Mathematics for Industry」が開始されました。

○大学院数理学府担当教員の異動

2015年度 (2015.07.01 ~ 2016.03.31)

転入等 IMI准教授・阿部拓郎(京都大学から)

転出等 数理助教・深井康成(福岡歯科大学へ)

数理准教授・田口雄一郎(東京工業大学へ)

数理教授・幸崎秀樹(定年)

IMI教授・岡田勘三(定年)

基幹教育院教授・高瀬正仁(定年)

数理助教・松井秀俊(滋賀大学へ)

IMI助教・MOROZOV Kirill(東京工業大学へ)

IMI助教・小野寺有紹(東京工業大学へ)

2016年度 (2016.04.01 ~ 2016.06.30)

転入等 数理教授・小林真一(東北大から)

IMI准教授・廣瀬慧(大阪大から)

数理助教・薦谷充伸(新任)

○同窓会だより

◇同窓会会計報告（2014.05.01～2015.04.30）

取入		支出	
事項	金額(円)	事項	金額(円)
前年度繰越金	2,754,067	名簿作成費、郵送料	663,557
新入会費	300,000	住所調査はがき返信郵送料	12,414
寄附	436,000	振込用紙印字	3,202
預金利息	345	翌年度繰越	2,823,439
収入合計	3,502,612	支出合計	3,502,612

◇同窓会活動報告

2016年 6月 3日 第17回幹事会

2016年 8月 会報No.10 発行

◇同窓会役員

名誉会長：原 隆

会長：川崎 英文

庶務幹事：大津 幸男

会計幹事：高田 敏恵

編集幹事：岩瀬 則夫、村川 秀樹

学内幹事：前園 宜彦、角 俊雄、渡部 善隆、渋田 敬史、横山 俊一

院生幹事：鶴田 憲太朗

会計監査：溝口 佳寛、植田 好道

学外幹事：岩元 隆、大黒 隆、四宮 光文、橋本 弘治、関 剛、平坂 賢、栗林 壮太郎

○寄付して頂いた方（順不同・敬称略）

(2014.05.01～2015.04.30)

林正高、中本尊元、江口正晃、平下幸男、元田康夫、佐藤坦、清田武秀、福嶋幸生、白井将博、中尾充宏、富崎松代、安岡孝司、山崎隼之介、池田信行、末吉豊、吉田守、南正義、柴田英企、弥永学、吉田正章、風間英明、川口淳、山本敬博、橋本邦夫、今井昭、西川正史、川野秀一、繫木伸孝、渡辺善隆、松永弘道、斎藤登、宗政昭弘、有川節夫、中尾裕之、柿並

健次、安藤和博、有志、林平馬、関剛、山口富男、小川奏子、兒玉正憲、加納省吾、鷺尾泰俊、大浦学、松田康雄、安田正實、上江洲香実、大堀勝正、野瀬敏洋、木本一史・知子、元山善一、内藤淳、深見哲造、栗山憲、新開章三、八丁直行、田中靖子、藤澤克樹、高田敏恵、大石隆、島内博行、井上順子、石川眞昭、丸山祐造、安生健一、井上浩一、中村治、岡本育久、木下健志、中尾慎宏、澤村陽子、徳田建司、国場敦夫、石川晋、四宮光文、張田珠潮、長郷文和、豊田晴一、中原徹、金子昌信、西坂覚、萬代弥寿夫、谷山泰子、田淵大樹、木寺孝之、藤原悠行、佐伯修、甲斐裕、吉田守、佐藤優子、轟寿男、吉永勇太郎、岩本誠一、加藤久子、原本和夫、主計翔平、佐竹愛佳、小崎光喜、三輪創威、栗林薰、石井克明、深見龍太郎、毛井貴彦、伊倉大貴、土屋央、平林修一、諸熊勇輝、山村雄大、軸丸芳揮、寺本有花、立花ひかり、堀川祥暢、大森誠、荒巻正、本山真誠、松澤匠真、森園明範、平野友美、田中慧、堺亮二、野木裕二朗、石丸昂、伊山秀平、北川仁、岡崎悦明

○卒業生の進路

2016年3月

◇修士課程

★進学（博士後期課程）16名

九大数理（15名）

東京工業大学

★教職 5名

県立（福岡、宮崎（2名）、佐賀）

私立（福岡）

★公務員 3名

厚生労働省、人事院四国事務局、青森市役所

★企業 16名

塩野義製薬株式会社、ソニーイーエムシーエス株式会社、(株)コンピュータサイエンス、トヨタ自動車株式会社、(株)NEC情報システムズ、キャノンアルゴスロジック株式会社、セントラルソフト株式会社、デジタルソリューション株式会社、(株)

オービック、(株) ジオ技術研究所、(株) 豆藏、富士通株式会社、(株) りそな銀行、(株) 三井住友銀行、山口フィナンシャルグループ、(株) さなる九州

◆ 博士課程

★ 研究職 13 名

東北大学 (助手)、東北大学 (助教)、東北大学 (特任助教)、インドネシア Brawijaya University、名古屋工業大学 (特任助教)、学術振興会特別研究員 (東大)、九大数理博士研究員 (5名)、九大IMI博士研究員 (2名)

★ 企業への就職 4 名

テクノステータサイエンス・マーケティング株式会社、アメリカンホーム医療・損害保険株式会社、(株) KDDI研究所、Huawei Technologies

○ 数理同窓会ホームページについて

同窓会HP : <http://alumni.math.kyushu-u.ac.jp/>
に数理同窓会ホームページ (HP) を公開中です。過去の同窓会報のPDFファイルが置いてあります。会報中の写真や図はカラーでご覧頂けます。HPの会員専用のページには、パスワードによるロックをかけています。パスワードはホームページ上でも確認できますが、ユーザ名: alumni、パスワード: 20150801 です。予告なく変更する場合もありますので、その際はご容赦願います。数理同窓会ホームページの内容充実に関してご意見等ございましたら、編集幹事までお気軽にご連絡ください。

編集幹事: alumni-editor@math.kyushu-u.ac.jp

● 編集後記

□ 本年度の院生会長という大きな役割を任せてもらっていますが、多くの方々に支えられているのだと日々感じます。昨年9月に校舎を移転しましたが、学部1年生の頃から伊都キャンパスで学んで来た私にとって他の理学部の存在は新鮮です。また、

編集に関わる中で旧校舎の名残や変遷を感じ、九大数理の歴史に触れる事ができたことを嬉しく思います。

かもだけんたろう (2016年度院生会長博士1年)

□ 平成27年10月より、新館での生活が始まりました。講義室やバス停など、いろいろと近くなり、快適に過ごしています。さて、これを書いている今、窓をのぞき込むと、街の中に花火があがっているのが見えます(8月1日)。伊都からだと、遠く、見下ろす形になりますが、これもまた乙なものです。

むらかわひでき (編集幹事)

□ 富田先生と言いますと、私が修士課程の学生だった頃のことですが、ご自身の研究室やセミナー室は理学部3号館の4階にあるのに、なぜか位相の溜まり場のある5階に姿を見せられることが多かったのを思い出します。先生を見つけた藤井隊長が「あれ、富田先生、何か?」といつもの大声で話し掛けると、先生は短い挨拶を残して踵を返されたのを思い出します。それから先生の最終講義でしょうか。200頁程度の本は一晩で読んだというお話をあって、うわ、すごいなと驚いたことを覚えています。富田先生のご冥福をお祈りいたします。 合掌

いわせのりお (編集幹事)

数理同窓会報 No. 10

2016年9月1日



発行: 九州大学大学院数理学府同窓会

〒819-0395 福岡市西区元岡 744

九州大学 大学院 数理学研究院内

↑↑ alumni@math.kyushu-u.ac.jp (e-mail)

社会福祉法人

Typeset by \LaTeX

印刷・発送: 福岡コロニー